

師走（しわす）は、師（僧侶）が走るとの由来もあるようです。12月というだけで、なんとなくあわただしい気持ちになります。とはいえ、目の前の仕事を一つ一つかたづけて、新しい年を迎えたいものです。

この1年のご愛読ありがとうございました。現在会員登録数3,214人さま。次号は新年1月21日発行の予定です／

☆。.:*。★。.:*。☆。.: 目次 *。☆。.:*。★。.:*。

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。.:*。★。.:*。☆。.: *。★。.:*。☆。.:*。★。

【1】お知らせ

● 連続講座「目で見るとイギリス児童文学の歴史」

講師が所蔵するイギリス児童文学に関わる貴重なコレクションを紹介していただきながら、イギリスの子ども本の歴史についてご講演いただきます。

講師：三宅興子（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）

日時：令和2年1月25日（土）、2月22日（土）、3月15日（日）

各回 午後2時～3時30分

場所：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本北）

内容：

第1回「最初期のイギリスの子ども本から始めて」

第2回「子ども本の「第一次黄金時代」」

第3回「20世紀イギリスの子ども本」

定員：各回 50名（申込先着順）

参加費：各回 1,000円

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

助成：子どもゆめ基金助成活動

お申し込み、詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『よみがえった奇跡の紅型』 中川なをみ/著 あすなろ書房 2019年11月
対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：沖縄を代表する伝統工芸の紅型（びんがた）は、琉球王国でどのようにして生まれたかを紹介し、明治末期に衰亡の危機にあった紅型を研究した鎌倉芳太郎、沖縄戦後に紅型を再生させた城間栄喜、紅型に影響を受けて「型絵染」という自らの芸術手法を確立した芹沢銈介の仕事と人生をたどるノンフィクション。

Y：力のこもったノンフィクションでした。

T：沖縄の独特な地理、12世紀から1980年代までの政治、文化的状況を、「紅型」という具体的なものを通して描き出したところがとても興味深いと思います。

Y：中国と日本には生まれた琉球王国だからこそ生まれた芸術であるということが伝わってきました。

T：紅型に関わる3人の評伝でもあり、読者が3人に寄り添って読んでいける仕掛けもおもしろかったです。

Y：この3人は、紅型を後世に遺す強い思いとともに、ただ過去の模倣をするのではなく、自分自身で芸術を切り拓いていく部分があるという点が共通しています。伝統を受け継ぐとは何かということについて考えさせられました。

T：紅型の復興には、柳宗悦が起こした「民藝運動」が強く関連しています。この本では、最初から柳をクローズアップするのではなく、章を追うごとに読者が柳を意識するように書かれ、芹沢の章になって柳がたっぷり登場します。巧みな構成だと思いました。

Y：作品中では、沖縄戦で紅型の型紙が破壊されたり、紅型の関係者や家族が死んでしまったりすることも書かれています。

T：そういう意味では、「戦争児童文学」とも言えます。そして、それぞれの評伝には、魅力的な脇役がいました。

Y：鎌倉芳太郎には、沖縄の下宿先の座間味ツルさん。琉球の上層階級の言葉である首里言葉を教えてくれたりして、鎌倉を沖縄文化に誘ってくれました。城間栄喜には父親のような存在の大阪の柳田米次郎さん、そして芹沢銈介には、柳宗悦です。

T：紅型を通して人々が絡み合い、このままテレビドラマになるように思いました。

Y：ノンフィクションとして事実が客観的に書かれたことで、かえって、作者の思いが伝わるように感じます。

T：紅型の美しさも装幀やカラー図版からわかります。

Y：紅型の工程など、技術的なこともしっかり紹介されていてもっと紅型について、紅型に関わる人物について知りたくなりました。

T：とても残念なことに首里城は火事で燃えてしまいましたが、この本や参考文献に掲載された本を読むことで、琉球文化をいかに伝えていくかを考えることができると思います。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第52回「虔十公園林」

生涯たった一つの願いと逆らい —永遠の公園林が意味するもの—

〈虔十はいつも縄の帯をしめてわらって杜の中や畑の間をゆっくりあるいているのでした。

雨の中の青い藪を見てはよろこんで目をパチパチさせ青ぞらをどこまでも翔けて行く鷹を見付けてははねあがって手をたたいてみんなに知らせました。〉

豊かな自然に心惹かれ、感情を抑えきれない虔十。しかし、生業には従事せず、笑うばかりの虔十を村人は馬鹿にし、冷笑・嘲笑していました。

ある日虔十は、どういう理由からか家の後ろの野原に杉苗を植えたいと言ひ出します。しかしそこは固い粘土層の地盤で、もともと杉は育たない土地。苗 700 本を買ってくれと言われた母は戸惑い、兄は反対しますが、無駄を承知で父は買ってやれと言います。母は安堵し、兄も虔十の植林を手伝い、家族の助力を得て虔十の杉林は造られます。

しかし、虔十が村人の冗談を真に受けて枝打ちをしたことから、村の子どもたちが林の中を行進して遊ぶようになります。喜んだ虔十でしたが、杉林の北側に土地を持つ平二から伐れと脅され、〈一生の間のたった一つの人に対する逆らいの言〉でそれを突っぱねます。

虔十が亡くなって 20 年近く経った頃、村の小学校を出て有名になった人が村にやってきます。この間、村はすっかり町へと変貌していましたが、虔十の杉林だけは当時のまま。それをみたその人は、〈ああ全くたれがかしこくたれが賢くないかはわかりません。ただどこまでも十力の作用は不思議です〉と言います。

〈本当のさいわい〉を人々に伝える公園林は、虔十のたった一つの願いと逆らい、そして虔十に対する家族の思いによって完成します。この奇跡を、賢治は〈十力の作用〉（仏が具える十種の智力）という言葉で表現したのです。

「雨ニモマケズ」においてデクノボー的人間像をうたい、〈サフイフモノニ／ワタシハナリタイ〉と書いた賢治。虔十（kenju）が賢治（kenji）を連想させることも夙に指摘されているところです。

虔十が人々に〈本当のさいわい〉を教える公園林を残したことが賢治における創作とするならば、そこには、賢治の自作に対する強固な自負、そしてそれを支える家族の無償の愛への希求と読めるのかもしれませんが。私には作品に絶対的な自信を持ちながら、十分に理解・評価されることのなかった賢治の苦悩が痛いほど感じられるのです。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 5

「あっという間に体じゅうがぼかぼかだわ。心があるって、なんてすてきなんでしょう」

（『青矢号 おもちゃの夜行列車』ジャンニ・ロダーリ/作 関口英子/訳 岩波少年文庫 岩波書店 2010年5月 p140）

『青矢号 おもちゃの夜行列車』は、イタリアのベファーナの日（1月6日。子どもたちが魔女ベファーナにプレゼントをもらう日）の物語。ベファーナのお店のショーウィンドウに飾られていたおもちゃたちが、ショーウィンドウを毎日のぞきに來ていたのに、プレゼントをもらえなかったフランチェスコをかわいそうに思って、フランチェスコの家を目指して出かけていきます。犬のコインがフランチェスコのにおいをたどり、おもちゃたちはおもちゃの列車、青矢号に乗って出かけます。

青矢号の乗客には、三人組の木でできたマリオネットがいて、「あたしたち、なんだかとてもかなしいはずなんだけど、泣くこともできないの。だって、木でできているから、心がないんだもの……」と言います。すると、赤いクレヨンが大きなハートをマリオネットの胸に描きます。三人のマリオネットは、冒頭の引用のせりふを言います。

赤いハートが描かれたただけでおもちゃに心が宿るという発想、心があることを素直に喜べるという心性が、幼年文学らしい楽しさに満ちています。

おもちゃたちは、苦難を乗り越え、フランチェスコだけでなく、プレゼントをもらえなかった子どもたちの元へたどりつきます。マリオネットは、パオロという男の子の所へ行きますが、三人一緒にないと嫌だと言い、「ハートが三つってことは、かなしみも三倍ってことでしょ？」と言います。ハートを持つことの意味を物語の中で巧みに表現しており、物語の名手ロダーリらしさを感じます。（Y）

《4》 行って来ました！

美術館「えき」KYOTOで12月25日（水）まで開催中の巡回展「ぼくとわたしとみんなのtupera tupera絵本の世界展」に行ってきました。tupera tuperaは亀山達矢さんと中川敦子さんの2人組ユニットで2002年から活動しています。この展覧会では、絵本の原画やラフ、布雑貨、立体作品、映像など、初期の作品から最近のものまで約300点がもりだくさんに展示されています。

作品にはところどころに手書きの解説がつけられていて、制作過程やその作品が生まれた経緯などがよくわかります。絵本作品は原画のそばに本が置かれていて、その場で手に取って見ることもできます。

原画のおしゃれでカラフルで楽しいコラージュは、自分たちで作ったいろんな色柄や質感の紙を使用しているようで、机の上の再現にも個性豊かな紙が

たくさん並んでいます。初期のじゃばら絵本『木がずらり』（2004）は、飾るための絵本として作られたそうで、色とりどりの木がとてもきれいです。しかけ絵本『やさいさん』（2010）は、アイデアの元となった空き箱で作った「やさいカードばたけ」が展示されていて、自分でも作ってみたいと思いました。円い形にこだわった絵本『あかちゃん』（2016）は、工場で円型にくり抜かれる工程の映像がおもしろかったです。『パンダ銭湯』（2013）は絵本の銭湯が再現されていて、湯船に浸かるポーズで撮影できるようになっています。

ユニットであることで、アイデアを膨らませ、議論し、お互いの得意なことを生かすことで洗練されたデザインかつユニークな発想の本が次々生まれているのだということが理解できた展覧会でした。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「魅せます！紙芝居展」

国際児童文学館所蔵の印刷紙芝居を中心に、1930年代から現在までの歴史をたどります。

会期：開催中～12月28日（土） 休館日あり

会場：大阪府立中央図書館 展示コーナー、国際児童文学館（東大阪市荒本）

主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

協力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

● 『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展

会期：開催中～1月6日（月） 休館日あり

会場：阪急うめだギャラリー（阪急うめだ本店 9階）

料金：有料（小学生以下無料）

主催：阪急うめだ本店、朝日新聞社

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント ☆

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『よみがえった奇跡の紅型』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.112 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は1月10日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

旅の効用とは、非日常に身を置き、新たな出会い、新たな発見により、心身共にリフレッシュすることだろうと思います。一方で、新幹線で帰路に就く際の駅弁と缶ビールも、ほっと一息のすてがたい魅力があります。日常に戻

